

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	苫小牧市			代表者名	岩倉 博文
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務部 ICT 推進室	連絡先電話番号	0144-32-6196
担当者役職	主幹	担当者氏名	川合 基央	連絡先E-mail	
住所	059-8722 北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名(予定)	デジタル人材育成	
概要	庁内DX等に対応し得る職員の人材育成及びデジタルマインドの醸成を目的とした研修・ワークショップ			
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)			

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年12月23日	支援・助言(実地)	9時30分	16時30分	60
				活動時間(分)	360
2-2. 派遣場所	会場名	苫小牧市役所		最寄駅	苫小牧駅
	所在地	北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号		最寄駅からの交通手段	バス

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	酒井 一樹
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	別事業によるアドバイザー派遣で実施した研修・ワークショップの講師・ファシリテーター要員として、参加していただきましたが、事前に実施内容の詳細すり合わせができていない状態にもかかわらず、研修・ワークショップの内容を的確に理解し、生成AI活用の具体的なアドバイスやグループディスカッションの促進、アイデアの整理をしていただきました。ワークショップ後に、ワーク中での職員との意見交換で感じた民間人としての意見を率直に伝えていただいた。受講者のDX意識レベルを再認識させられるとともに、意識変革の取組をもっと積極的に行わなければと感じました。
アドバイザーへの要望事項	ワーク中での参加者とのやり取り、ワーク外での職員との意見交換で感じた様々な御感想があるかと思います。他自治体と比較して、良かった点、悪かった点など、率直にお聞かせいただけると幸いです。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	56人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	住民	
	人数	56	

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)	現在の職員の行動・マインドは、DX推進に程遠い状況にあるためには、職員が、前例を踏襲していれば良いという意識を変え、デジタル技術やデータを活用して課題解決や価値創造を図っていくように行動を変容させていくことが大きな課題となっています。
支援により目指す成果(具体的に記入下さい)	「『あそぶこと』から始める生成AI」では、代表的なDXツールである生成AIに触れることで、DXは他人事・面倒事というイメージを、DXは自分事・便利というイメージを持ってもらいます。「『やめること』から考えるDX」をテーマとしたグループワークを通して、それぞれの職員が抱える課題を組織内で意見として出し、共有し、解決に向けたアイデアを所属内や任意のグループで練り、事業化や予算獲得に向けて行動を起こせる職員を作り出します。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	09:30-10:00 事前準備 10:00-12:00 DX推進研修「『あそぶこと』から始める生成AI」(47名 うち市外6団体7名) 支援:生成AIの活用例やプロンプト例、利用サービス等の紹介 13:00-13:30 副市長との面談(3名) 13:30-16:30 DXワークショップ「『やめること』から考えるDX」(33名 うち市外6団体8名) 支援:テーブルファシリテーターとして、ディスカッションの促進、アイデア整理	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AI活用の技術や意欲を高めることができました。</li> <li>日頃から「やめたい」と考えている業務を意見として表に出すことができました。</li> <li>それぞれが意見出した「やめたいこと」について、グループで話し合うことで、内容を深掘りすることができました。</li> <li>「やめたいこと」を解決するアイデアをまとめ上げることができました。</li> <li>一連の取組を通して、課題から解消アイデアをまとめ上げるスキルを身に着けることができました。</li> </ul>	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIの基本的な活用スキルや活用する意欲</li> <li>グループワークで作った業務見直しのアイデアシート</li> <li>DXを具体的に進めていく上で、企画立案段階における具体的な手順を参加職員が習得できたこと</li> </ul>	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	まとめ上げたアイデアを事業化や予算獲得していくためには、上司の了解、財政協議等が必要となりますが、その説得するための客観的な根拠をまとめ上げるスキルが必要となります。今回の研修・ワークショップでは、その点まで踏み込むことができなかったため、次の機会ではデータ活用をテーマとして、職員のスキル向上を図っていききたいと考えています。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり(12/26現在の結果です。アンケート回答期限は12/27)	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	生成AIやDX推進について考える機会を継続して設け、職員が生成AIやDXを当たり前と考えるよう、組織全体の意識変容を図ってまいります。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	DX推進を加速するために、苫小牧市や近隣自治体、関係自治体における各々の職員が意見を挙げ、解決のアイデアを話し合い、具現化に向けた予算獲得やソリューション導入を進めていく風土を醸成すること	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可  掲載可  <https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

**なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい**

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

